

新任のごあいさつ

広報委員長 中嶋幸房



東京に転勤された吉沢進前委員長から引継ぎまして、私はこの9月1日付けで当協会の広報委員長を仰せつかりました。なにぶん、この業界の環境や習慣に疎いので、皆様のご指導とご支援を得ながら、進めさせていただきたいと思っています。

私、生まれは熊本県天草、育ちは長崎、大学は鹿児島、業務経験の多くは東南アジアです。最近では本社勤務で、主に技術開発の雑用をやっていました。この4月に仙台転勤となり、初めての寒冷地での生活になります。今までのところ、東北地方は景色もいいし、食べ物も酒もうまいし、本業の低迷を除けば大変快適です。これからの本格的な寒冷期は若干怖いところもありますが、「無料地吹雪体験ツアー」も悪くないと思っています。

昨今の地質調査業界は、一部の企業を除いて、構造的な逆風の下にあります。従来型の業務の量が縮小する中で、多くのメンバー企業の事業量も縮小しています。さらに、地質調査業務は建設コンサルタント業務の一部に埋没してしまうと見る向きもあります。

こういった状況の中でも、地質調査の重要性はいささかも変わるものではありません。逆に、より重要性を増しているとさえ言えます。地震や台風、集中豪雨の多い日本の国土では地盤災害は絶えませんし、地盤環境汚染の問題も深刻です。道路やダム、斜面あるいは地すべり地の保全も当然必要です。構造物に対しても耐震基準の見直しによる新たな調査も必要になってきています。さらに、コンクリートは人工の岩盤と考えれば、これらの劣化の問題は我々の取り扱う範囲であってよいと考えます。これらの問題は地質の成因と風化のメカニズムを良く理解していないと、誤った解釈によっ

て被害を拡大しかねません。我々は地質とその調査法を良く知っており、ここに他が追従できない強みがあり、より正しい調査結果を出すことができます。正しい調査結果は確実にライフサイクルコストの縮減をもたらします。こういったこの業界の強みを支えに、いい時代を迎えたいと思います。そのためには、協会メンバーの行う業務の質の維持と向上が大切だと考えます。広報委員会もその活動を通じて、少しでも貢献できればと考えています。

新年度からは、従来の広報委員会は企画広報委員会として、再出発することになっています。会費の値下げも決定されており、広報委員会の予算も大幅削減が避けられません。これに伴って、この広報誌「大地」の体裁と中身についても大きく変更が必要になります。次号からは大幅なスリム化、特にカラーページの削減が必要になります。しかし、経費は削減しても、構成をより整然としたものにして、質は確保していきたいと考えています。従来通り技術委員会をはじめとした各委員会の協力を得て記事の充実を図るとともに、読者のみなさまのご意見も取り入れながら、よりよい「大地」を目指します。

また、国土交通省東北地方整備局との意見交換会を毎年開催して、協会側からの意見を述べていきたいと思っています。これにも読者のみなさんからのご意見も反映していきたいと考えています。

地質調査業の存在意義を世にアピールしていくことは非常に重要です。協会活動の中で広報委員会がこの部分の多くを担当することを思うと、身の引き締まる思いです。引き続き読者のみなさまの委員会活動へのご指導とご支援をお願いいたします。